

## 第1回豊明市総合教育会議 会議録

日時 令和6年12月23日（月）午前10時～

場所 豊明市役所 新館4階 第1委員会室

### 構成員

|            |        |
|------------|--------|
| 市長         | 小浮 正典  |
| 教育委員会 教育長  | 藤井 和久  |
| 同 教育長職務代理者 | 長山 加代子 |
| 同 委員       | 青木 睦   |
| 同 委員       | 井戸 貴子  |
| 同 委員       | 南 寿樹   |

### 事務局

|          |       |
|----------|-------|
| 行政経営部長   | 小串 真美 |
| 秘書広報課長   | 伊藤 克代 |
| 秘書広報課長補佐 | 加藤 良子 |
| 秘書担当係長   | 川端 龍也 |

### 関係部局

|        |       |
|--------|-------|
| 教育部長   | 浅井 俊一 |
| 学校支援室長 | 山田 秋男 |
| 学校教育課長 | 秋永 亘正 |

欠席者 学校支援室長 奥平 剛

傍聴者 1名

市長 常日頃からこどもたちが小学校中学校で過ごしやすい環境をつくるため、色々な形で御尽力いただき本当にありがとうございます。

この12月に中学生と意見交換をしてまいりました。

中学生はやはり荷物が多くて、後ろにある個人の棚だけでは入らないので、それを増やしてほしいという要望があり、全校生徒でアンケートを取られて出されてきたので、それについては基本的には進める方向で考えたい。

ただ、今の施設、今の棚を壊して進めるとなるととてもお金がかかるし、一部の学校だけできる話ではなく、全部の教室にやっていかないといけないので、プラスアルファで棚を広げて、共有スペースを広げる方向でまとめたい。

中学生との意見交換で色々な議論をしているので、そういったことも重ねながら、皆様から色々な指導をいただきたい。

教育長 学校訪問や市長と話そう会に出た感想としては、こどもたちから出る意見が変わってきていると思う。

また、エアコンの問題やトイレの問題、それ以外の様々な問題が徐々に改善されてきているので、昔は学校へ行くと修繕に関する話ばかりだったが、今はほぼない。

これから考えていく必要があるのは、教育の本質的な部分を向上させるには、どうすれば良いかということ。このことが、教員が足りないなどを理由にして、おろそかになっているのではないかと思う。

そのため、我々としてもどうしていけば良いのかを考えていかなければならない。

今日は皆さんからも意見をいただいて、貴重な時間にしたい。

## 2 議題

### (1) 教育委員会学校訪問に係る報告について

委員 設備面とかの要望はあまりなかったが、各学校共通して最上階にある特別教室の大きさだとか、暑さの問題が厳しくてそれぞれの学校から要望があった。

あとは駐車場の問題。色々な支援員がいるので学校の中に入る方の数が増えている。特に豊明小は駐車場が狭く場所もないので、以前から課題になっているプールの跡地活用を検討していく必要があると思う。

ただ、エアコンについては、今後、体育館にエアコンをつけていくということなので、電源容量などを考えると、なかなか一筋縄にはいかないと思う。

また、豊明小のトイレの改修がなかなか出来ないくらい老朽化しているということだとか、床が腐っているだとか、防火シャッターが降りると、逃げ場がなくなるなど様々な課題を抱えていると感じている。

栄小も大規模改修を保留にしている関係で、照明の更新が後回しになっているので、教室の照明が暗いかなという印象を持った。

また、それぞれの学校から出たのが遊具の話。やはりこどもたちが外で体を動かすということは大事なので、遊具の問題も早めに解決できるとよい。

学習面では、自由進度学習や国際理解教育、タブレットの持ち帰りなど各学校がそれぞれ考えを持ちながら工夫していると感じた。

課題点としては、色々な取り組みを、学校間で共有ができると良いと思う。

学校現場から提案があったが、色々な情報や書類面などをペーパーレス化して共有する時にクラウドを利用する場合のセキュリティーポリシーを整備していただきたい。どこまでならクラウドに置いて良いのか、どこまでなら公開して良いのか、それぞれのファイルに対してどこまでのセキュリティーレベルをかけるのかといったようなことを今後しっかり検討していく必要がある。

他の学校現場の事例でいえば、当然成績を扱うので、開示して良いレ

ベルやセキュリティーレベルを細かく決めている。これらを整備できれば、クラウドなどで情報をうまく共有して、学校間の情報共有も進みやすくなると思う。

地域との連携はまだまだ模索している段階かなと思う。学校側も地域側も、何をしたら良いのか分からないという手探りの状態なのかと。コーディネーターの方も交えて、あるべき姿をしっかりと描いていく必要がある。

市長 エアコンについては、検討事項もあるが基本的に特別教室も全部入れる方向で考えたい。

体育館に入れていくことで決めている状態なので、それを優先させた状態で、こういった形でやっていくのかということを考えたい。

豊明小の駐車場が足りない問題は、プールを改修していかないといけないが、栄小の改修を止めているので豊明小のプール改修も止まっている状態。問題は認識しているので、そういった形で改善していきたい。

教育長 豊明小のシャッターについては、構造上の問題で、閉まると反対側に行けなくなるという状態。

行政経営部長 防火シャッターについては、早急に確認する。

市長 安全性が優先されるため、すぐに点検を行い、しかるべき措置をとりたいと思う。

教育部長 情報関係について、ポリシーの策定はしてあるが、クラウド利用に特化して細かく扱っているものではない。来年度、新しい機器を入れる関係で教員の環境が若干変わる。その段階で整理し直す必要があると思っているので、対応していきたい。

市長 個人の成績だとかその生徒とひも付く情報が流れると、非常に大きな問題がある。他の生徒さんに流れたとか他の保護者に流れたというのは、一旦流れてしまうと消せないなので、非常に神経質に扱わないといけない。

教育部長 基本的には校務管理システムというものが既に入っているの中でやりとりをすることになる。

学習に関するところの補完的な部分として、クラウドを使うような形になっているのでその辺のルールはしっかり確認していきたい。

委員 ただ、現場の声としては、どこまで許すかにもよるが、校外からもアクセスできるようになると、色々な業務がしやすくなるということだったと認識している。

行政経営部長 成績等の重要なデータのエリアと、工夫出来ている取り組みを共有するようなレベルのものは性質が違っていると思う。

例えば市役所だと、掲示板とかで共有することも出来るし、回覧板で共有することもできるが、成績のような重要なデータは、サーバ上の権限付与により特定の所属しかアクセスできないようにして、しっかり守っている。

情報のランクづけみたいなものも含めて、クラウド側をどのように構

築したら良いかをマニュアル整備も含めてやっていく必要がある。

システムは、校務管理システムがある。それをどう使うかということなので、使い方を例示していきたい。

委員 市役所からの資料を、ZIPファイルでいただいているが、今はZIPファイルで後からパスワードを送るというやり方はほとんどなくて、逆にウイルススキャンなどが出来ないためZIPファイルは受けませんという企業もある。

情報の送信方法は、市としても併せて検討願いたい。

市長 地域との連携は、部活動の週末の問題で一定程度地域へ移行させないといけない状態になっているため、そこが目の前の問題としてあり、地域の人たちに、ここを取り組んでもらうということ以前に、まず週末に教員を関わらせない状態で、部活動をどうやって維持させるのかに行き着いている。

今現在としては、そこを優先させたいと教育委員会も自分も思う。

教育長 それに加えて、地域学校協働推進事業を令和8年4月からできるように、コーディネーターを雇って学校との間に入ってもらい、その仕組みをつくる中に、PTAやおやじの会、区など色々な団体が入る。その上で調整しながら学校からの要望を聞いて、連携していく形を取りたいと思う。実際に小学校でやりたいと言っている学校もあるので、それを進めていきたい。

来年4月は難しいので、1年かけて他市町の状況ややり方を見ながら全市で取り組みたい。

市長 遊具の問題は、老朽化している状態が分かってきているので、事故が起きる前に使用停止させている。最終的に遊具をどうやって入れていくのかは次の段階。それぞれ学校の要望を聞きながら考えていきたい。

特に小学生の場合、遊具が必要であることは間違いなく認識している。ただ、保育園も小学校も公園も全部同じ問題が生じている状態。

基準も厳しくなった。

停止させるだけでなく、きちんとそれぞれの利用主体と話し合いながら、遊具も大分進化しているので、こういった遊具が良いとか、どの遊具が以前はよく使ったけども最近余り使われていないものなのか、こういった遊具が学校の体育の授業などでも活用できるし、こどもたちが遊ぶのに当たって、多くの子に使ってもらえる遊具なのかということは、十分理解した状態で入れていきたい。

委員 1点目は教職員のメンタルヘルスが気になった。特に問題を抱えているこどもを担当している先生。昨今は、指導が難しくなっている。

ストレスチェックシートを出して、管理職と面談をやっていると思うがなかなか出てこない。該当者は案外多い。

学校訪問で聞いたのは、時間的に職員会議が持てないということ。結果、横の連携が取れない。

例えばこの子について、どういうふうにしようかというグループ討議

とか、教職員の中の対策委員会のような時間を持ってない現状がある。

2点目は、部活動を地域移行したときの経費について。

貧困家庭のお子さんは、親に遠慮したりするし、親もお金がない。そのことで参加出来ないということがあっていいのだろうか。

この問題は、教職員の働き方改革から始まったことで、こどもたちからの要求ではない。こどもたちにとっては、先生の都合で、部活動が出来ない。この問題の中に、部活動の教育的意義の論議がない。いかに地域移行しようか、誰が担当するかという方法論ばかりになっている。

部活動は教育的にはすごく大事。このまま学校教育から外れてしまうと意義とか、狙いというのが、なおざりになるのではないかと危惧している。

3点目は、医療的ケアが必要な子の教育条件について、少人数がゆえに後回しにされているということ。

例えば、お母さんの体調が悪いとその子は休まざるを得ない。その子は元気でも、お母さんが学校に連れてきてもらわないと困るということがある。

医療的ケアというのは制約が色々とあり、一般の教員では対応出来ないで、お母さんか看護師免許を持っている人が必要になるし、経費もかかる。

先ほどの部活動を地域移行したときにかかる経費を市が負担するとか医療的ケアのこどもたちに必要な経費等は行政が負担するなど、この子たちが気にせず学校へ行けるようにしてほしい。

4点目は、貧困問題。

給食だけが頼りの家庭の子が多い。食をはじめ生活の土台をしっかりさせないと教育が充実しないと思う。

最後にいじめに関する提案がある。

いじめに関する相談を受けた。教職員の多忙とも関わってくるが、先生に相談したけどもスルーされた。担当した教員が早期解決を図り、杓子定規に学校に来て、お互いに話し合えば解決するというような指導を受けたことにより学校不信になった。

いじめがあったときは、校長まで一緒になって、この子をどうするかという対策をしてから行動するシステムをしっかり作るのはどうか。

市長

部活動について、お金がないから出来ないという差別はあってはならない。これは教育委員会も既にそういった意向である。

こどもたちからすると、自分の能力を伸ばしたいけれどその機会を奪われる状態にある。それはあってはならないので、予算的にも十分かけた状態で、少なくとも今やっている機会については、保証できる状態にしていきたい。

ただ、競技人口そのものが減ってきている競技もあるので、状況に応じた併合はどうしても必要になってくる。

まずは週末の移行が目前の問題に来ているため、既存の部活動を極

力維持する方向に集中させる。

ただ、一方では、新しい種目をやりたいという子が増えてきていることも自分たちは認識している。次の段階として、考えていきたい。

部活動は、こどもたちの能力を様々な形で伸ばし、何よりも、交友関係を深めるという点で非常に重要なことだと思う。

医療的ケア児の問題については、学校だけではなく保育園に関する問題でもあり、普段関わっていらっしゃる医療機関の看護師が付き添っていただけるような形で各医療機関と連携させていきたい。

貧困の問題は、十分認識しており、まごころサポート便という便を送っている。経済的に困っている家庭に定期的に送っている。

このサポート便を送っているのは、この問題がなかなか解決に向かわないため、生活保護の制度があるがこの制度は、色々なものを手放さないと基本的に成り立たない。

例えば、典型的な女性単身世帯の方が何人かのお子様を育てていらっしゃる世帯からすると、車を手放すのは自分の仕事を手放すことと同じ状態となり、自分自身も何も出来ない状態に追い込まれて逆に今よりも悪化する恐れがあるから、自分の仕事を維持するために生活保護は断る。

正規職員として働いてなくて、パートタイムで土日も含めた状態で複数抱えている状態の方は相当数いることは間違いない。この方々は生活保護の対象者でないため、市も詳細は分からない。

このまごころサポート便を送ることで、いつでも市、あるいは社協がどちらかに連絡をいただいて、こういった困り事があるということで、本来あるべき姿につなげている。

また、介護や看護などの専門職が集まった重層支援センターを共生社会課に新たに設けているので、精神的にも物的にも支援を続けていきたいと思う。

提案に関する部分は、我々も認識している。

学校に相談すると逆にうまくいかないケースが一定程度生じているということで、来年度重層支援センターを強化して、学校と重層支援センター（福祉部門）をつなぐ役割を一定程度、市役所側で持ち、窓口が学校だけでなく他の窓口もある状態で、必要なこどもたちがちゃんと連絡を取れる体制を作っていきたい。

重層支援センターそのものはとても大きな成果を上げている。

同じような組織を作っている他市等の事例もあるが本市は内包化している。センターの職員は、全て関係機関から出向という形で現職の方をそのまま地域とつながった状態で寄せ集めたので非常に特殊な組織で運営している。

これは小さい市で、元々、高齢者福祉の分野で色々な機関とつながっていたから成り立っている状態で、互いに各機関と信頼関係が出来ているため、非常に動きも早い状態で運営出来ている。その部分を拡充していきたい。

教育長

教員のメンタルヘルスの問題は、各学校色々と抱えている。

児童向けのスクールカウンセラーが教職員の相談にも応じているが、自分の学校の中では相談しにくいのかと。

昔は教員同士の横のつながりがあり、定期的な懇親会等があった。市役所も同じで関係が希薄になっていて、仕事は仕事でそれぞれ独立して行い、悩みも1人で抱えてしまうという問題があるのではないかと思う。

学校の風通しをよくして、自由に意見が言えるような体制を築いてくださいと校長先生にもお願いをしている。

人と深くかかわらない人も多いので非常に難しい問題と認識している。

医療的ケア児の問題については、現状、常時看護師が必要な児童生徒はいないが、いつ入ってくるかわからない。学校支援室に専門で対応している職員がおりガイドラインを作っている。看護師の派遣については、何かあったらすぐ派遣できる状態なのですぐに対応出来る。

ただ、逆に学校側が門を閉ざしてしまう可能性があるので、何かあったらまず相談してくださいと校長会等を通じてPRする必要がある。

貧困問題やいじめ問題は非常に難しく、短期間ではなかなか解決出来ないが、やはり早く解決したいと思ってしまう。

重層支援の話が出たが、教育と福祉部分がそれぞれ独立しており連携が取れていない。それは来年度に向けての課題で、先ほど市長の話にもあったが、組織的に色々なやり取りができるようにしたいと思っている。

いじめ問題の最近の傾向を見ていると最初に起こった問題は小さいのに、それが膨らんで大騒動になるケースが多いため、慎重に色々な背景を見極めながら時間かけて対応する必要がある。

委員

困り感のあるこどもたちを目の当たりにして、この子たちに対して先生が対応していくために働き方改革とか時間をとることが、重要で大切なことだと感じた学校訪問になった。

今年から始まった施設の包括管理に関して、校務主任の先生だと言うが相談に乗ってもらえてありがたいと言われた。施設管理は直結してこどもたちの安全面につながっていくことなのでとてもよかったと思っている。

館小と豊明小だったと思うが、避難をするときにこどもたちの出口が1か所に集中して出ていけないことと滑り台を置いてないから上の子たちが逃げることも出来ない。現状だと、1か所の出口に多数のこどもたちが集まって逃げるしかないと言っていたので確認が必要だと思う。

他の委員からも話があったが、豊明小に関しては大規模改修だとかそういうことではなくできることはしていくべきだと思う。

外国籍の子たちが、日本語を何とかしゃべれるようにとサポートされている部分はあるが、学習に対して悩んでいる子（特に中学生）が多く多い気がする。やはりしゃべる日本語と問題文等を勉強するときの日本語が違い過ぎて、頑張っていないのではなく、諦めてしまったと

いうふうに感じる。

分からなさ過ぎて諦めてしまったという感じの子もいると思うと、そのサポートをどうしたら良いかと学校現場も悩んでいる部分だろうなと感じる。とにかくできるサポートをしていくということしかない。

不登校について、各中学校には別室だったり、フリースクール的なものだったりを置いていて、その中で各中学校の特色を踏まえながら、そのこどもたちがどういうタイプの不登校なのか等も交えながら一生懸命対応しているとすごく感じている。

重層支援センターでは、不登校の子たちに対して居場所づくりをしているとの話を聞いた。先生との関わりを途絶えさせるわけにはいかないと思う。学校以外で居場所を作って過ごしている子たちが、きちんと学校側と連携を取ってそのことが反映されているのかが気になったので、学校として、今学校に来られていない子たちで、外で元気に動いている子たちを把握なり認識しておくことがきちんと出来るように連携が取れると良いと思う。

他の委員からもあったが、学校間の横のつながりがほとんどないのかなと感じさせられることが多かった。横のつながりがあればクリアできる問題も実際あったので、連携が取れると良いと各学校に個別で行ったことで感じた。

最後にコミュニティースクール運営協議会について、運営協議会で何をしたら良いのかという状態がずっと変わってない。形だけの会話で終わっていく学校もある。

学校によっては、上手に声掛けをして地域の方に授業補助として技術とか家庭科に入ってもらったり、コミュニティースクールで発信することにより授業で使う資材を提供していただいたりしている。

学校間のつながりの話にもなるが、この事例は学校同士知らないと思う。すぐ隣の学校ではちょっとしたことで、こういった連携が進んだということも知らないだろうということがあったので、学校同士、話をしていけるようになると良いと感じた。

市長

施設の面については、避難場所が1か所に集中しているのは望ましくないなので早急に点検する。滑り台が良いのか、避難階段をつけるのが良いのか等十分考えていきたい。

施設の管理会社を入れたことは、全体として他の施設についてもプラスに働いている。市としては、応急措置だけで済むものか、ちゃんとした工事をしないとイケないものか判断が出来なかったが、業者は判断ができるので相談に乗れる状態になっている。他の施設も同様に大きく改善された部分だと思う。

豊明小が老朽化していることは間違いない。

栄小が先になっているのは児童が増えているためだが、結局、栄小も後回しにしているうちに、この2年ほどで豊明小の状況はさらに悪化していくことは間違いない。この点については、最終的にまとめた状態で



両方とも進めていきたい。

外国籍の子たちの問題は、イメージしていた状態。日本語が一定程度やれて授業についていけることをまずは目標としていたが、次の段階として学習として結果を出せる状態、つまり高校以降のところまで、イメージした状態で日本語教育はしていかないといけないと思っている。これは必要であればお金もかけてやっていきたい。

不登校の子の居場所づくりについては、ありとあらゆるところに全部のネットワークを探した状態で、取りあえず居場所づくりをしている状態が今現在の重層支援センターの方向性で、センターと教育の現場等をつなぐ役割を来年度以降は持たせる状態にしていきたい。

居場所づくりとこどもとの信頼関係をつくって、こういうところがあるけどどうかという、その居場所づくりしているため、それ以上は進めない状態になっているので、学校と重層支援センターをつなぐ役割を一定程度持たせていきたいと思う。

教育長 学校同士の横のつながりについては、確かにそういう印象がある。ただ、校長会でも検討していて、何か一つのテーマに関して、情報交換シートを活用して議論を行っているが、まだ不十分なところもある。

また、情報を上げやすい職場環境の整備についても校長会で話をしていきたい。

校長会では、毎月必ず議題が上がってきていて、各学校で回答して議論している。色々な問題があったり、各学校個別対応をされていて統一が取れていなかったりすることが結構多いので、これを継続し発展させていきたい。

委員 外国にルーツを持つこどもについて、今は二村台小に集中しているが、今後は広い地域に広がっていくのではないかな。そういう形になると今までのような学校教育の普通の授業の在り方でやっていけるのかという心配がすごくある。日本のこどもたちが多かった時代と違うので、相当な工夫が必要になると懸念している。

不登校のこどもたちとか外国にルーツを持つこどもたちで、教育をちゃんと受けられなかった子たちの学び直しの機会がどこかであると良いだろう。年齢を経て学ぶことの意味や意義などが分かるようになったときに学び直す機会があっても良いと思う。

地域の方との連携について、何かやってほしいという学校側からのアクションが少ない気がする。こどもたちに対応できる方もたくさんいると思うので、地域の人材を生かして色々な形で還元できるのではないかなと思う。

遊具の件について、使用を一時停止している遊具をやめるのか新しいものにするのかということを精査して考えてほしい。やはりこどもたち、特に低学年は遊具で遊ぶのは楽しいと思う。

文化会館の植栽について、かなりの数が抜けたり、一応生きてはいるが抜けそうなものがたくさんあったりするので、植え直すのか無くすの

市長

かなど他の施設も含めてどのような形で進める方向なのか聞きたい。

外国にルーツを持つこどもたちの問題は、タクシーで来てもらえる状態にまでしたので、二村台小学校の地域以外のこどもたちは、今現在はそれほど多くはないがそれで賄っている。タクシーを使って良いこととしたため、それが成り立っている状態だが、他の地域でもっと増えてくると成立しなくなってくる。その場合は、南側の小学校にも拠点を作らないといけない時代がどこかでやってくるだろうとイメージしている。

目の前の問題としては、外国にルーツを持つ子からたけ保育園に集中し、半数を超えている状況なので、二村台小学校の6年後は半分の児童が外国にルーツを持つこどもの学校になる。今の2割強となっているのが一気にそこまで進む可能性がある。

そこを見据えた状態で、委員の言う学び直しと別の問題として、小学校に通っている時代に、毎年見直す機会も設けていけないといけないだろうし、日本語教育に対するスタッフを手厚くしていかないと、こどもたちの学ぶ機会は保障されないだろうと思う。

学び直す機会があるのは望ましい。

委員が言う学び直しの機会は、外国にルーツを持つこどもたちだけではなくて、全てのこどもたちについて、例えば高校でうまくいかなくて、ドロップアウトしてしまった子たちが、もう1回ほかの道を歩める状態にするなど、高校ぐらいのところでカバーできる状態を一定程度確保していきたいと思う。

児童館の一部の開館時間を長くして中高生用の時間帯を作っていく状態になるので、その中で彼らがどのような形を望んでいるのか、どういった場所を望んでいるのかなどを把握していきたい。

カラットを運営したことで、こどもたちの居場所が全く不足していたということに対して十分反省する。

中学生と意見交換を行った中で3中学校とも学習室、実習室をもっと増やしてほしいと言われた。これは3年前には一切出なかった議題で、ずっと施設が駄目ですという話だった。

生活が多様化して学習する場を提供してあげないと専念出来ないのだろうというふうにも思っている。そのことも含めて彼らが何を望んでいるのか十分意見を聞いていきたい。中学生とは意見交換できる状態となっている。

児童館を夜のバージョンとして高校生の居場所づくりをする中で、彼らが何を思っているのかを把握していきたい。

遊具については、一定程度お金をかけざるを得ない。これは分かりやすい事業になるので、小学校、保育園についてはやっていきたいと思う。

文化会館の植栽については、雑草や枯葉など他の問題への対応で文化会館に行き着いていない状態。

まずは、雑草や枯葉の問題。中学生からすると、特に沓掛中学校エリアは自転車で通う子が多く、車道と歩道が分かれてないところもあり雑

草が伸びてくると自転車の行く場が車側になるので危ないとはっきり言われている。これについては重点的にやっているが追いついていないので、これに対応するのと文化会館について整理させる。

生涯学習課の職員は知識を持っていないので、公園を管理している都市計画課の職員にどういった植栽が望ましいのか等を話し合わせる。

委員

エアコンやトイレなどの工事は、全部小学校からというふうにしてきたと思うが、中学生の実験などで特別教室を使うのと使いたいなというのでは意味合いが違うと思う。

そのあたりの状況を聞いた上で優先順位をつけてほしい。学校としては、全部つけてほしいというのが要望だったが、学校側と話をして決めていくということにしてほしいと思う。

市長

普通教室については一斉にやる状態だった。トイレの問題と体育館について、小学校の体育館に先に入れるのは、避難所の配置が小学校をメインとして運営する形で全体のエリア配置をしている状態になっているため。

小学校のトイレが先だったのは、小学生の方がトイレを我慢出来ない子が多く、特に低学年が多いということで、小学校から始めた状態。

特別教室については、必要なところに入れていくべきだと思う。利用頻度が高い場所や他に代替措置が取れない場所から入れていくべき。

教育長

来年、各学校にどこにつけてほしいか優先順位を付けてもらう。来年出てくるのは、普段から使っている場所になるので、そこはそのままやることになると思う。

優先的にエアコンが入る可能性があるのも、そこは教育長の裁量で、この中学校のこっちの方が利用頻度が高いかなということも相談する必要があると思う。

特別教室の話だけではなく、例えば通級指導とか小学校も来年別室を検討しているが、そういったところは全然整備されていないので、そこは別枠で考えたい。

保護者と相談する部屋にエアコンがなくて暑くて困っているという話もあったので、そこも含めて考える必要あると思っている。

委員

プールを今後どうするか。駐車場にするなど色々活用があるけども、放置はもったいない。特に豊明小は、駐車場もほとんどないし、早めに対応出来ないのか。

教育長

なるべく早くできるように努力する。

委員

どこの学校もプールの跡地利用は決まっていないのか。

市長

栄小と豊明小はどちらも駐車場で二村台小も駐車場が足りてない。基本的に駐車場になっていくのが主流だと考えていただいてよい。

ただし、プールの場所によって、活用方法は変わることになる。

例えば、栄小がそうになっているが、低学年用の遊具を置いているスペースがグラウンドと違うところになっている学校もあるので、そのような活用の方が望ましい跡地利用となるところもあるかもしれない。

将来的に学校を建て替えしていく状態になっているため、余剰地として持っておかないといけない土地もある。そのことも考慮しながら考えていく必要がある。

学校は基本的には、これ以上統合しない方向で考えている。1学年1クラスになるなどこどもたちが極端に減れば別。基本は今の学校数を維持する方向で考えている。グラウンドを全部閉鎖することはできないので、一定程度維持した状態で学校の建て替えをするときの代替地としても考慮して、次の構築はしていきたい。

基本的に建物は建たないので、そういった方向で考えている。

委員 雑巾やトイレの状態から衛生面に疑問を持ったり、教室内の整理整頓ができていなかったりする状況を毎回の学校訪問で見ると校内の環境整備が行き届いていないと感じる。

学校ではどのような対応をしているのか。

支援室長 雑巾の衛生面については同じように思う。

色々な先生方がいる中で、そういうことに意識の高い人もいれば全くない人もいるのが現状。全く声かけをしていないということはないと思うが、なかなか統一した対応を取るのは難しい。

トイレの清掃に関しては、知る限り、今は手袋をはめて、白い雑巾を使っているのが大丈夫だが、教室の廊下などは素手でやっている。

教育長 使わない部屋が、物置のような状態になっている学校がいくつかあった。

委員 今は、SSSを配置しているので、一緒になってやれる人でやるしかないと思う。やはり荒れている場所があるのはどこだってよくない。

教育長 栄小の最上階にあるトイレで水が流れにくい箇所がある。緊急ボタンを2回押さないと流れない。

構造上の問題なのか機器の設定の問題なのかわからない状況。

市長 状況を調べる。

委員 今の話を聞いていて、学校の整備として例えば、市内一斉に日程を決めて廃品回収するのも一つの方法ではないかと思う。

各学校は、その日に向けて不用品等をリストアップしたり、様々な方々に手伝ってもらったりして、日を決めてやるのが良いかと感じた。

学び直しの機会を提供するにあたり、協力したい場合、声をどのように上げたら良いのだろうか。今は上げ方がないのではないかと思う。

学習の場もだが、野球やサッカーなどの運動をする場も市内にはないのではないか。学校でも制限されている状況がある。

放課後、こどもたちが体を動かしたいときにその場がない状況なので何とか提供できないかなと思う。以前は学校開放で校庭の開放をやっていたと思うが今は曖昧になっている気がする。

市長 小学生は基本的に使える状態に施設上になっている。

教育長 最近、授業が終わったら学校に入るのは駄目という学校がある。

委員 事故があっては困るとの理由で駄目と言っている。

市長 整理する必要がある。  
学校の校庭が1番安心して遊べる空間になっている。公園以上に。広いし、公園は大人がいる。

教育長 中学生も小学校に行っているようで、安心できるとのこと。  
委員 学校で遊んだとして、17時までには帰るなど、放課後のグラウンドの使い方のルールはあるのか。

支援室長 学校によって違うと思う。全ての学校について確認をしたことはない。  
栄小と三崎小は、授業が終わったら使えないことになっているようだが、それ以外は把握していないがおそらくは使える。  
学校によっては、その日の日没何分か前にもう帰りなさいよという学校とは別の独自ルールや安全面を考慮して、中学生の利用を制限するなどのルールもあるようだ。

市長 各学校の状況を確認して、統一見解を出した方が良いように思う。  
公園では、大きい子たちが使っていると小さい子たちは全く入れなくなる。  
大人たちが優先権を持った状態で野球などをやっているが、独占権ではなくあくまで優先権。遊んでいる子どもたちを追い出すような状況が発生したため、あらゆる団体に市長名で前述のようなことがないように通知を出した。  
例えば、野球専用で使いたいのであれば、お金を払って勅使グラウンドを利用してくださいと。  
このような理由から名称をひろばに変更した。  
ただし、学校が1番安心して遊べる場所であることは間違いない。  
このことは、整理した上で教育委員会等の話題にしたいと思う。

教育長 本日は、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

市長